

# 幕別町の子どもの学力

幕別町教育研究所





# 幕別町教育研究所について

## 活動方針

- 1 本町における教育の進展改善に資するため、教育研修資料の収集や教育の専門的事項の調査研究を進めるとともに、実践的研修機会および教育実践に役立つ資料の提供に努める。
- 2 教育研究所員が研修を深め、本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、関係各機関との連携をよりいっそう強め、研究研修の質の向上を目指しその課題解決に努める。

# 所員の構成と担当

- ①所長1名、副所長1名
- ②所員8名（町内8校から1名ずつ）
- ③所員8名が、4つの研究グループに2名ずつ分かれて担当

# 事業内容

(1) 生徒指導の機能を生かした学級・授業づくりの研究・研修

①Q-Uを活用した集団づくりに関する研究

②Q-Uテストへの理解を深める研修

(2) 学校ICT利活用推進に関する研修

①GIGAスクール構想、学校DXに係る調査研究

②一人1台端末活用推進に係る研究

～ ロイロノートの利活用について

# 事業内容

## (3) 幕別町の子どもの学力についての研修

### ①学力調査による分析

## (4) 学校ミドルリーダー育成に向けた研修

### ①学校教育における諸課題の解決に向けた研修

- ・小中一貫、C・S
- ・学校地域協働活動 など



# 幕別町の子どもの 学力についての研修

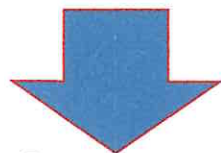
- ・学力調査による分析

# 学力調査

～令和4年度

「標準学力検査CRT／

目標基準準拠検査」(図書文化社)



令和5年度～

「標準学力調査」(東京書籍)

# 学力調査

問題の傾向として

**CRT～ 知識・技能の力を問う設問**

**学力調査～ 思考・判断・表現の力を問う設問**



# 学力調査

## 問題の傾向として

学力調査では12月から実施できるようになっている。

このことは、結果の活用と連動しており、学年を修了する前に弱点となっている部分を復習するなどの取り組みが可能である。

設問の傾向としては、全国学力・学習状況調査のかつての問題(B)で出題されていたような、「主として「活用」に関する問題」に近い内容、例えば国語では、複数の資料を関連づけて整理し、伝えたいことを明確に記述すること。

算数では意見交流や議論などの対話的な場面を取り上げるなどの日常の学校生活で起こりそうなことを題材としていることが特徴となっている。

# 学力調査 結果と考察

## 小学校 国語

3年生、5年生、6年生が知識・技能と思考・判断・表現のいずれも全国を下回っている。ただ、数値としては5ポイント未満の差なので、大きな差があるとは言えない。

また、特徴として、知識・技能と思考・判断・表現が共に関わり合っている様子も見られる。読むことや書くことの技能を高めることに伴って、思考力や表現力の力がつくのではないかと考えることができる。1年生、2年生、4年生については、全国平均と同等かそれ以上の値となっているため、今後も各領域のバランスを取りながら指導をしていくことで、各観点の学力が定着し向上していくことが期待できる。

# 学力調査 結果と考察

## 小学校 算数

いずれの学年もおよそ全国平均並みであるといえる。6年生については、マイナスであるものの、大きく差が開いているわけではない。思考・判断・表現の全国との差が、知識・技能の全国との差より、やや大きくプラスであることはよい傾向といえる。

授業の中で学んだ知識が、問題を解く際の思考力に連動していること、また、数学的に考え答えを導き出す活動が児童の思考・判断・表現の力として身につけていると考えられる。今後もこれまでと同様、もしくはそれ以上の数学的活動を取り入れ、知識・技能と思考・判断・表現の向上につなげていきたい。

# 学力調査 結果と考察

## 小学校 外国語

全国平均をおおむね5ポイント上回っている。英語を使う必要性を授業の中で取り入れ、英語でコミュニケーションができることを楽しむ活動により、各観点が全国よりやや高い数値に表れているといえるのではないだろうか。

5年生と6年生の、教科としての外国語に先んじて、3年生や4年生で取り組む外国語活動で、英語に慣れ親しむことがどれくらいできているか、教科としての外国語の学習を意識して、押さえておくべき基本事項に重点をおいて活動を行う工夫が必要であるのではないかと考える。

# 学力調査 結果と考察

## 中学校 国語

1年生、2年生ともに、知識・技能は全国平均を上回っている。思考・判断・表現においては、1年生が全国平均を上回り、2年生が1ポイント全国平均を下回った。また、1年生、2年生も、思考・判断・表現よりも、知識・技能の平均値の方が高い傾向がある。特に2年生では、知識・技能と思考・判断・表現の差が大きくなっているため、筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力を高めていく必要があると考えられる。

# 学力調査 結果と考察

## 中学校 数学

いずれの学年も全国平均を上回っている。特に、1年生の知識・技能では、5ポイント全国平均を上回っている。以上のことから、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われている成果だと考えられる。

今後も、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えることで、更なる学力の向上につなげていきたい。

# 学力調査 結果と考察

## 中学校 外国語

いずれの学年も全国平均を上回っている。特に、2年生の知識・技能では5ポイント、思考・判断・表現では3.7ポイント全国平均を上回っている。このことから、話されたり書かれたりしている内容を正確に聞き取ったり読み取ったりする力が備わっていることはもちろん、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて「必要な情報」や「概要」、「要点」を捉えることができている。

今後も、生徒自身が表現内容を考え、どのように表現するとよいか判断することにより、更なる学力向上につなげていきたい。

**児童生徒の学力向上に向けて**

**検証改善サイクルの充実**

情報共有等、組織的な取組

**ICTを効果的に活用した授業改善**

思考ツール「ロイロノート」の有効活用

**家庭学習の充実**

一人1台端末の効果的な持ち帰り



## おわりに

今回、東京書籍の「標準学力調査」採用初年度ということで、今年度分の本町と全国の平均点比較のみであったが、結果と考察にもあったように、本町の児童生徒は全国とほぼ同じくらいの学力を身に付けていることがわかり、今後の学習指導においての方向性を定めていく上での基礎的な資料としてまとめることができたのではないかと考えている。

これらの結果により、本町児童生徒の学力をより伸ばすために何が必要なのか、課題として残ったことは何なのかなどを見極めて、次回の学力調査の正答率が少しでも上向きになるように日々の指導に努めていきたい。



**ご静聴、ありがとうございました**